

経済・金融
フラッシュロシア GDP(2024 年 7-9 月期)
ー前年比伸び率は 3% 台まで低下

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

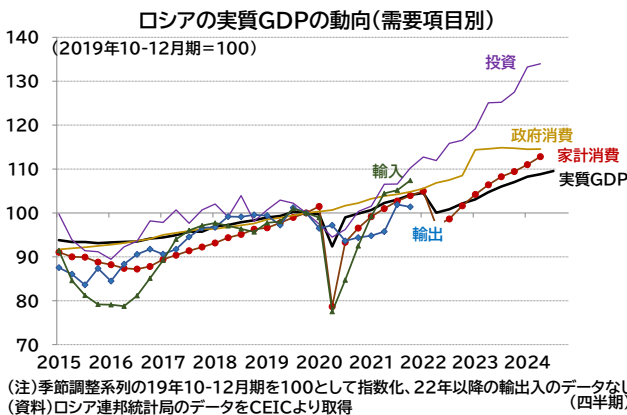
1. 結果の概要: 前年比伸び率は 3.1% まで低下

12 月 13 日、ロシア連邦統計局は国内総生産 (GDP) を公表し、結果は以下の通りとなった。

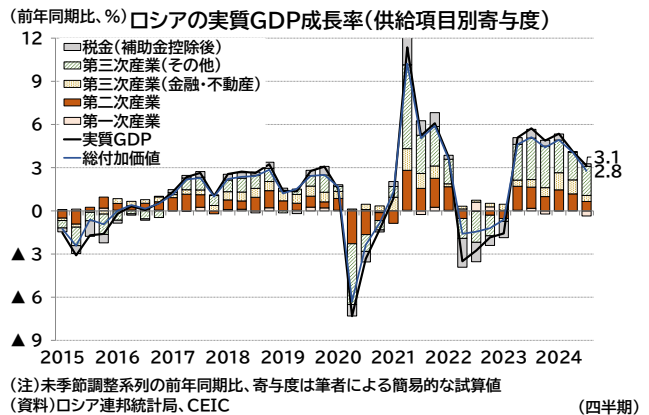
【実質 GDP 成長率 (未季節調整系列)】

- ・ 2024 年 7-9 月期の前年同期比伸び率は 3.1%、予想¹ (同 3.1%) と一致、前期 (同 4.1%) から低下した (図表 1・2)

(図表 1)



(図表 2)



2. 結果の詳細: サービス業が成長をけん引

ロシアの 24 年 7-9 月期の実質 GDP 伸び率は前年比 3.1% となり、11 月 13 日に公表されていた予備推計値 (3.1%) から変わらなかった。また、季節調整系列の前期比は 0.4% (年率換算 2.7%) となり、4-6 月期 (前期比 0.5%、年率換算 2.1%) から加速、9 四半期連続でのプラス成長となった。また、戦争前 (21 年 10-12 月期) と比較した水準は 5.3% だった。

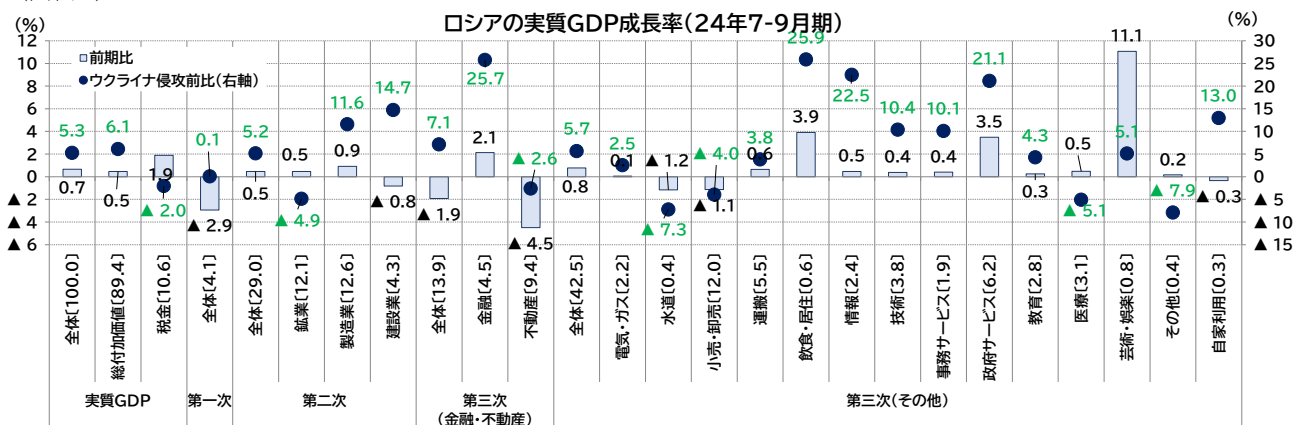
執筆時点では需要別のデータは未公表であるが、4-6 月期までの状況を確認すると、戦争後に活性化していた投資はやや鈍化した、引き続き家計消費が堅調で成長をけん引している (図表 1)。以下では産業別のデータ等を確認していく。

産業別の伸び率は、前年比で第一次産業が▲5.2%、第二次産業が 2.3%、第三次産業 (金融・不動産) が 2.9%、第三次産業 (その他) が 4.9% だった。前期比では第一次産業が▲2.9%、第二次産業が 0.5%、第三次産業 (金融・不動産) が▲1.9%、第三次産業 (その他) が 0.8% となり、傾

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

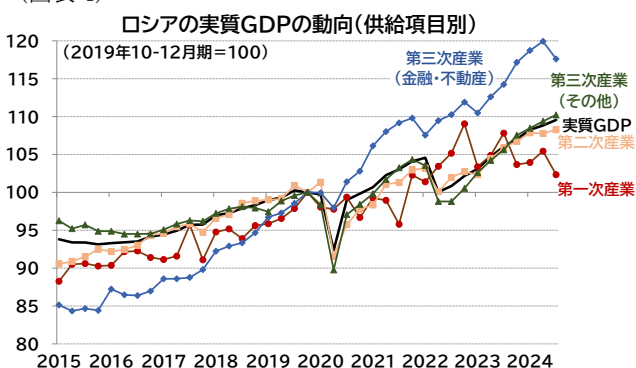
向的には第三次産業の成長が全体の伸びをけん引している（図表 4）。また、第一次産業は傾向としては緩やかに減速、第二次産業は足もとの伸びが鈍化している。より細かい産業の伸び率は、7-9 月期で不動産（▲4.5%）のマイナス幅が大きい一方、芸術・娯楽サービス（11.1%）、飲食・居住サービス（3.9%）、政府サービス（3.5%）などが高い伸びを記録し、成長をけん引した（図表 3）。

（図表 3）



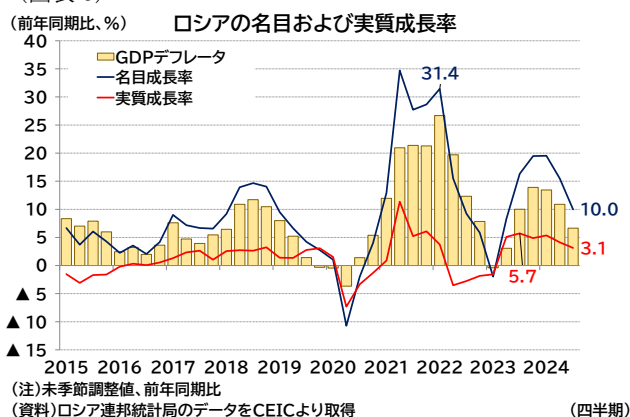
（注）□は2020年の実質GDP全体に対するウェイト、産業分類伸び率およびウェイトは筆者による試算、ウクライナ侵攻前比は21年10-12月期との比較
（資料）ロシア連邦統計局のデータをCEICより取得

（図表 4）



（注）季節調整系列の19年10-12月期を100として指数化
（資料）ロシア連邦統計局のデータをCEICより取得

（図表 5）

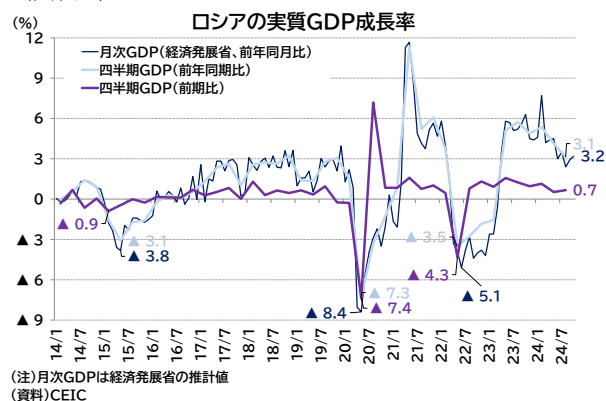


（注）未季節調整値、前年同期比
（資料）ロシア連邦統計局のデータをCEICより取得

ウクライナ侵攻前との比較では、戦争前までロシア経済のけん引役だった鉱業（▲4.9%）がマイナス圏にとどまる一方、住居・飲食サービス（25.9%）、金融サービス（25.7%）、情報サービス（21.1%）、建設業（14.7%）をはじめ、多くの産業が2桁増の水準にある。一部の産業は冴えないものの、総じて活況さが継続している。

また、7-9 月期の名目成長率は前年同期比 10.0%（前期 15.5%）、GDPデフレータ伸び率は前年同期比 6.6%（同 10.9%）だった（図表 5）。GDPデフレータの伸びは7-9 月期に大幅に減速した。ただし、消費者物価指数で見ると前年比で9%前後の伸びにやや加速している。輸入インフレの加速が方向感の違いを生んでいると見られる。

なお、直近までの動向を経済発展省が公表する月次のGDP成長率（前年比）から確認すると、4月4.4%、5月4.5%、6月3.0%、7月3.5%、8月2.4%、9月2.9%、10月3.2%となり、6月以降は3%前後での推移となっている（図表 6）。



（注）月次GDPは経済発展省の推計値
（資料）CEIC

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。